

授業科目名	看護技術 V			担当教員	小児看護、基盤看護、老年看護、メンタルヘルス、国際看護	
開講年次	4 年後期	セメスター	8		時間数(単位数)	30 (1)
必修選択	必修	授業形態	演習		使用教室	
授業の目的	専門性のある看護職者として必要な知識・技術等の能力が身についているか客観的評価を行うとともに、自らの課題解決に向けて取り組む。					
到達目標	1. 自己の看護実践能力を明らかにしたうえで、課題解決および能力の向上に向け、実践的な看護を学ぶ取り組みができる。 2. 状況判断が必要なシナリオを検討し、既習の知識や技術、経験をもとに必要な臨床技術を考え、観察、実践、報告できる。 3. 客観的臨床能力試験（objective structured clinical examination:OSCE）への取り組みを通して、専門性のある看護職者としての今後の課題を明確にできる					
ディプロマポリシーにおける科目の位置づけ	本科目は、これまでに学んだ全科目(実習を含む)の集大成として位置づいている。OSCE においては、各シナリオの患者に必要な臨床看護を考え、患者の観察、看護実践、報告できるまでを目指している。そのため、シナリオ展開では、これまでの演習資料を活用するとともに、人体の構造と機能、病態生理、治療、看護について再学習したうえで臨む必要がある。 以上のように、本科目では、実践的に看護を学ぶことを主軸としており、「看護の専門性を探究する力」を身につけ、自己の課題を見出し、改善・向上に向けた主体的に学修に取り組む自己教育力を身につける。					
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力	
		○			◎	
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)		取組時間	担当者
1	ガイダンス 事例提示	講義	現時点における自己の看護実践能力を明らかにし、課題を見出す		予習 2 時間	大重 倉岡
2	事例に基づく技術演習（基盤）	演習	事例に関連する人体の構造と機能、疾病と治療、関連法規、社会保障等を復習、原理・原則に基づく看護技術の復習、予測できる場面を想定した予習、演習ノート (フィジカルアセスメントを含む)		予習 1 時間 復習 1 時間	倉岡
3						
4	事例に基づく技術演習（小児）	演習	事例に関連する人体の構造と機能、疾病と治療、関連法規、社会保障等を復習、原理・原則に基づく看護技術の復習、予測できる場面を想定した予習、演習ノート (フィジカルアセスメントを含む)		予習 1 時間 復習 1 時間	大重
5						
6	事例に基づく技術演習（メンタルヘルス）	演習	事例に関連する人体の構造と機能、疾病と治療、関連法規、社会保障等を復習、原理・原則に基づく看護技術の復習、予測できる場面を想定した予習、演習ノート (フィジカルアセスメントを含む)		予習 1 時間 復習 1 時間	高橋
7						

8	事例に基づく技術演習（老年）	演習	高齢者関連の事例に関連する人体の構造と機能、疾病と治療、関連法規、社会保障等を復習、原理・原則に基づく看護技術の復習、予測できる場面を想定した予習、演習ノート（フィジカルアセスメントを含む）	予習 1 時間 復習 1 時間	姫野
9					
10	事例を通した看護技術試験（OSCE）のオリエンテーション	講義	事例でまとめた演習ノートの振り返り、技術試験のための練習（復習）	予習 1 時間 復習 1 時間	大重 倉岡
11	事例に関連した看護技術（OSCE を含め）を統合した技術試験	演習	技術試験を振り返り、原理・原則に基づく看護技術の復習および演習ノートの整理	事前 練習 3 時間	倉岡 大重 高橋 姫野 小川
12					
13					
14					
15	まとめ 1) 技術試験のフィードバック 2) 演習を通して、自己の課題を明確にし、課題解決に向けた取り組みを考察する。 3) 情報や研究成果を活用し、看護実践能力とは何かについて考察する。	講義	看護実践能力における自己の課題を明確にし、今後の取り組みについてまとめる	予習 1 時間	大重 倉岡
先行履修科目		4 年次前期までに卒業に必要な科目の単位をすべて修得していること ※卒業研究については、単位修得見込みであること。			
テキスト		茂野香おる他：系統看護学講座専門分野1基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ，医学書院，2015. 茂野香おる他：系統看護学講座専門分野1基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ，医学書院，2013.			
参考文献		これまでに使用した、講義・演習・実習資料。特に看護技術演習で用いた教科書、講義資料を参考にする			
評価方法		演習ノート（10%）、技術試験（60%）、技術試験（OSCE）後のレポート（30%）			
教員等の実務経験		看護の各専門領域の臨床経験のある教員が、その経験を活かして、さまざまな看護活動について講義します。			
メッセージ					